

ソーラーウォーマー

施工マニュアル

必ずお読みください



型式	SV2	SV3	SV7	SV14	
サイズ(高さ)×(幅)×(厚み)	524×524×55	700×515×55	1020×700×55	2010×700×55	
重量	4.8kg	5.5kg	9.5kg	14.0kg	
取込口径	125mm				
集熱能力	最大集熱量	200w	250w	500w	1000w
	最大加温能力	外気温+約11°Cにして吹出し	外気温+約15°Cにして吹出し	外気温+約15°Cにして吹出し	外気温+約30°Cにして吹出し
最大対応床面積目安	12畳(20㎡)	15畳(25㎡)	24畳(40㎡)	42畳(70㎡)	
ファン風量	15-30㎡/h	20-35㎡/h	40-90㎡/h	60-110㎡/h	
コントローラー	ON/OFFのみ	ON/OFFのみ	調整機能あり※オプション	調整機能あり※オプション	
備考	アルミフレーム+ポリカーボネート製保護パネル、ソーラー発電+ファン付				
設置方法	壁付け・アングル設置(オプション：斜め設置アングル使用)				
用途	物置・床下・ガレージ・ホビールーム		住宅・別荘・空家・倉庫・洗濯干しスペース		
オプション	サーモグリル・電磁グリル・斜め設置アングル				

もくじ

ソーラーウォーマーについて

- ・寸法 3

事前準備

- ・用意するもの・・・4
- ・設置場所について・・・4
- ・付属品、オプション・・・5

ソーラーウォーマー本体設置（屋外）

- ・ファン接続穴の施工・・・6
- ・取り付け金具の施工・・・6
- ・配線コード・・・7
- ・本体取り付け・・・8

室内端末グリルの取り付け

- ・フレーム金具の取り付け・・・9
- ・逆流防止弁の取り付け・・・9
- ・グリルの取り付け・・・9

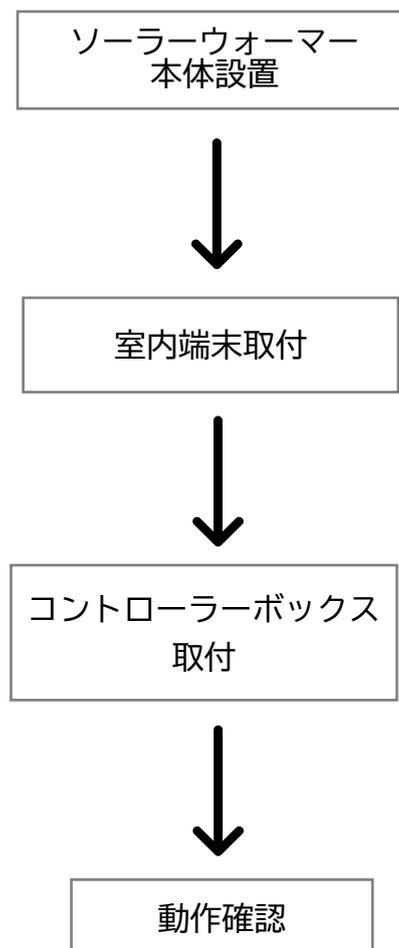
スイッチ、コントローラー

- ・スイッチの施工・・・10
- ・コントローラーの施工・・・11
- ・コントローラーの説明・・・12

施工完了

- ・動作確認・・・12

施工の流れ



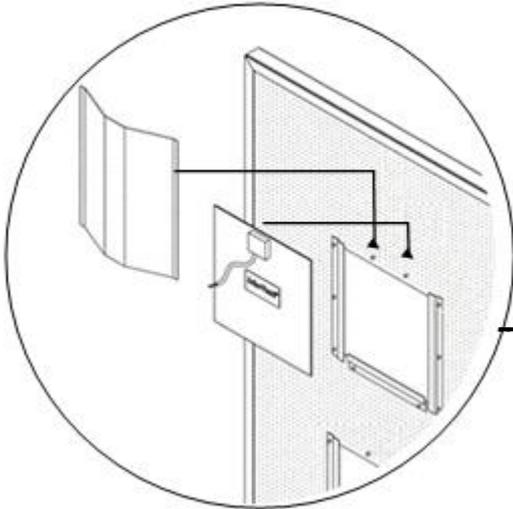
※施工完了後（結線後）必ず本体が正常に作動しているかご確認ください（P12）

⚠ 警告

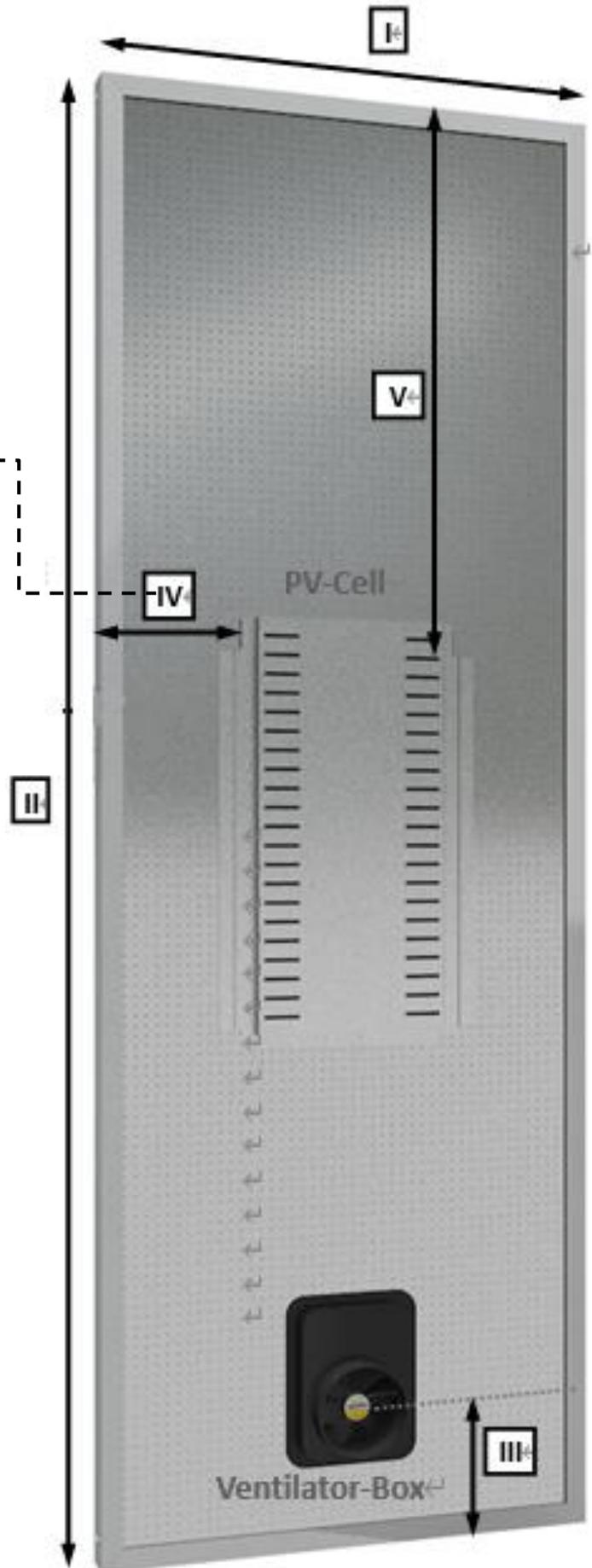
- ・ソーラーウォーマー・コントローラーの分解・改造等は事故・故障の原因となりますので、絶対に行わないで下さい。
- ・ソーラーウォーマーを運転したままでの清掃等は、ケガの原因となりますので絶対に行わないで下さい。
- ・ソーラーウォーマー本体に何らかの異常（異音・異臭等）があった場合は速やかに運転を止め、施工業者等に連絡して下さい。

・寸法

PV-Cell mounting (1x 18Watt)[←]



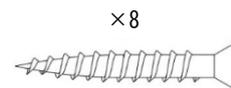
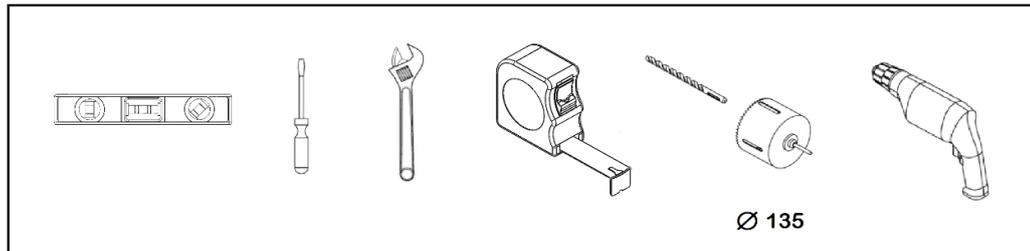
[mm]	SV3	SV7	SV14
I	515	700	700
II	700	1020	2010
III	200	200	200
IV	175	175	218
V	240	460	740
PV-cell	303x180 6 W	350x350 12 W	555x305 18 W



・用意するもの

水平器 ドライバー 六角レンチ スケール コアドリル or 杉ノ 電動ドリル

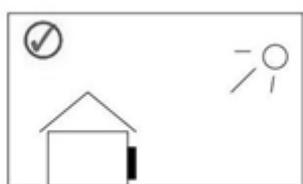
・本体取り付け用ビス



外壁の収まりを考慮した上で、適切な長さのビスを用意して下さい。

・コーキング材 (P7 使用)

本体設置場所について **<注意>** 後日、取外し等メンテナンス可能な位置に取り付けて下さい



- ・太陽光が当たる位置
- ・南側・南東側・南西側の面で、太陽光がパネルに直接当たる時間が最大になる場所が理想的
(真南に対し左右 45 度以内の角度)



- ・本体重量に十分耐えられるような場所
- ・樹木や隣家の陰にならない所



下記のアプリで 365 日全ての時間の太陽の位置がわかります。検討にあたってよろしければぜひご活用ください。

Sun Seeker (iphone)



Sun Surveyor (android)



使い方は、こちら⇒



《新築の場合》

- ・室内端末 (吹出) グリルを設置する四方にビス取り付け用の下地を組む
- ・コントローラーボックスを設置する場所にビス取り付け用の下地を組む
- ・外壁貫通スリーブ管 1 箇所取り付け
(外径Φ140±0.5)

《既存の壁への取り付け》

- ・取り付け場所の選定をする
↓
貫通スリーブ管を設置し、室内端末グリルが取り付け出来る場所、且つ本体重量に耐えられ、取付金具の固定可能な場所。
(構造材、配線配管の位置にも注意して下さい)

・付属品

2x (E1)



取付金具

2x (E2)



下部取付金具

(T)



フレキダクト

(D)

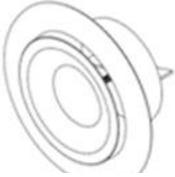


スポンジシリング



※スイッチ

(B)



室内端末グリル

(F)



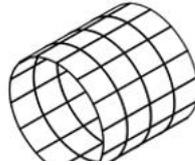
逆流防止弁

(C)

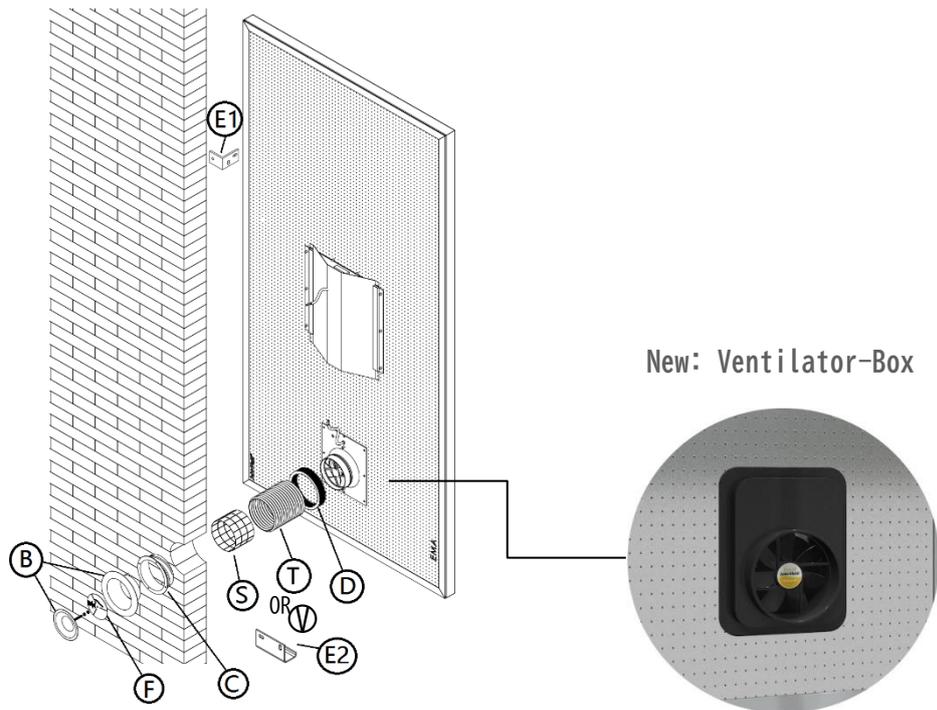


室内端末ルーム金具

(S)



吸音材



New: Ventilator-Box

・オプション

(V)



スリーブ管 (VU管φ125)
(内径: 131mm ・外径: 140mm)



コントローラー

ソーラーウォーマーの本体設置 <注意> 取り付け作業は、晴れている日を選んで行って下さい。

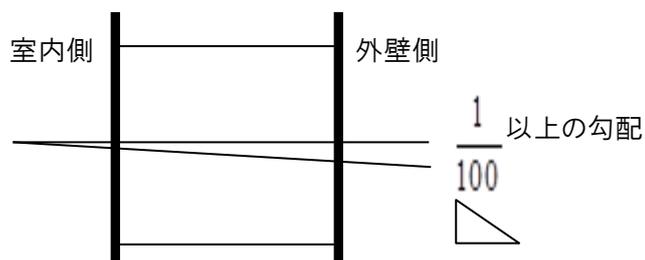
くもりの日では動作確認が出来ない場合があります。

・ファンの接続穴の施工

《新築の場合》
本体設置場所にスリーブ管が施工されていることを確認して下さい。

《既存の壁への取り付け》
本体の各モデルの寸法を参照し、外壁に穴を開ける位置を決め、印をつけてルキダ外もしくは、スリーブ（φ141）が合う径の穴を開けて、付属のルキダ外かスリーブ管（オプション）を挿入し固定して下さい。
※スリーブに 100 分の 1 以上の水勾配を設けて下さい。（図 2 参照）

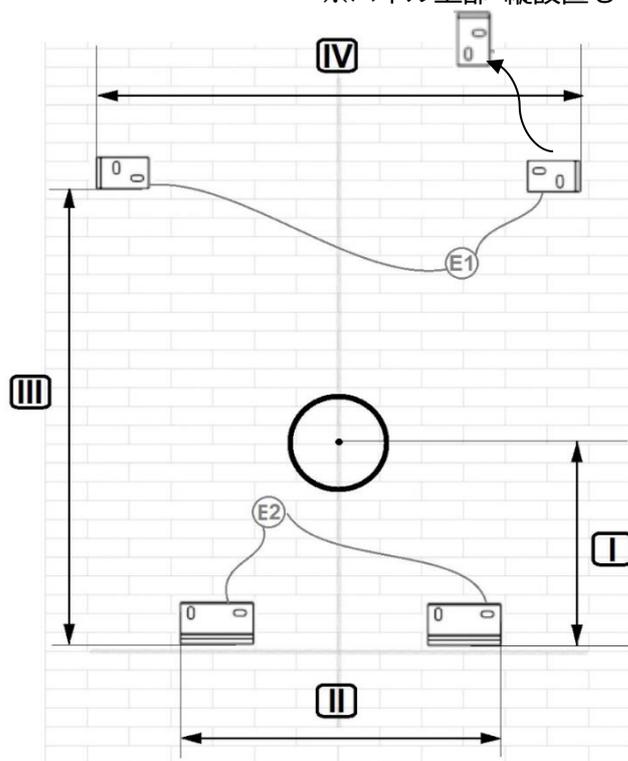
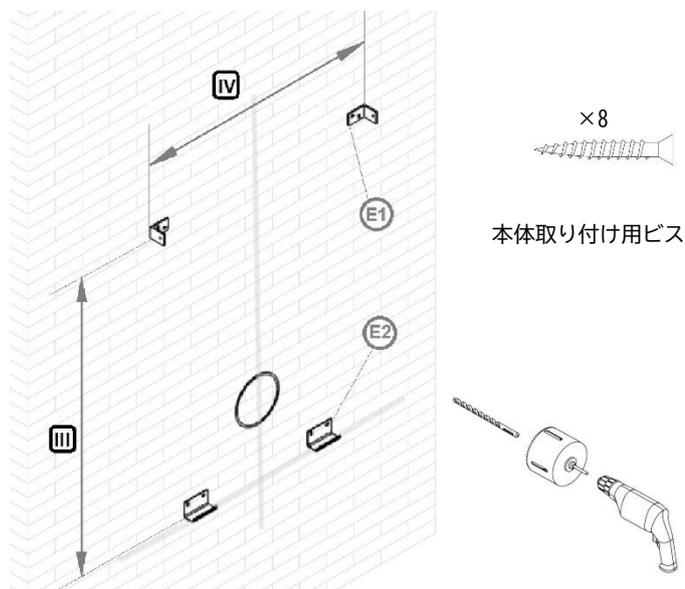
図 2 ※スリーブ管について



・取り付け金具の施工

柱・間柱や取り付け用下地のある位置になるように、本体取り付け用ビスで留め付けて下さい。

※パネル上部 縦設置も可



[mm]	I	II	III	IV
SV3	200	420	600	526
SV7	200	600	900	712
SV14	200	600	1800	712

※必ず金具の水平の確認を行って下さい。

※II～IVの寸法は目安で下地のある所に金具を取り付けて下さい

・配線コード

《新築の場合》

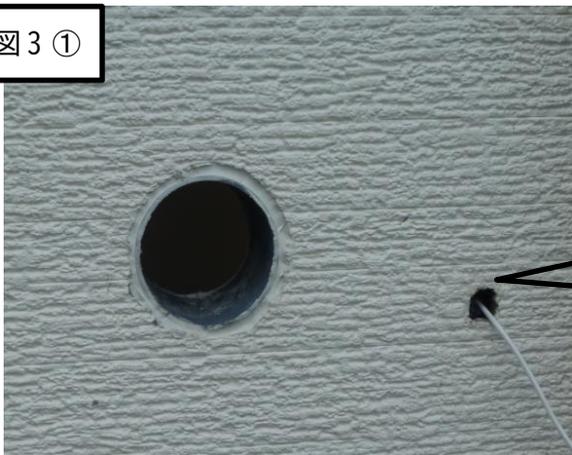
配線用コードは外壁を貫通しますので、事前に配線か CD 管を取り付けておいてください。

《既存の壁への取り付け》

本体に隠れる位置でコードを通す穴を開けコードを通して下さい。

※なお、配線（3 芯φ75）をご用意いただければ 20m 程度まで伸ばすことが可能です。

図 3 ①



配線用コードを通す穴の位置は室内側のコントローラーの位置を考慮して決めてください。

本体を外してメンテナンスが出来る

コードの長さを必ず確保して、

外壁側をコーキング材で塞いで下さい。

図 3 ②

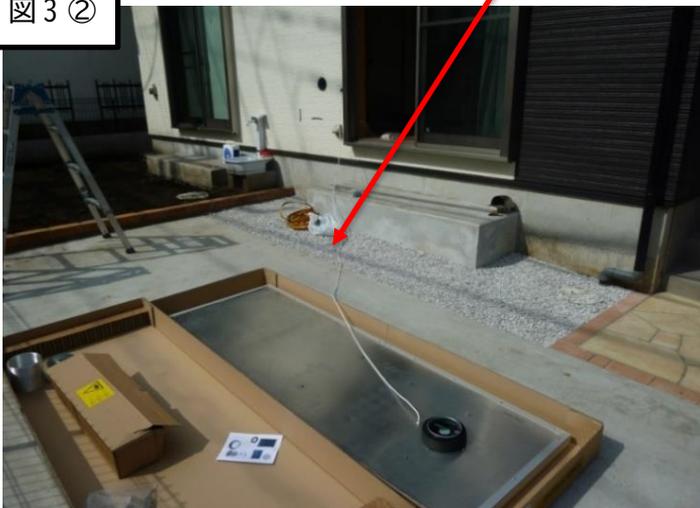


図 3 ③

外壁側をコーキング材で塞ぐ



図 3 ④

スポンジシーリングを本体裏側の空気吹き出し口にセットし、本体を設置して下さい。（右図 3 ④参照）



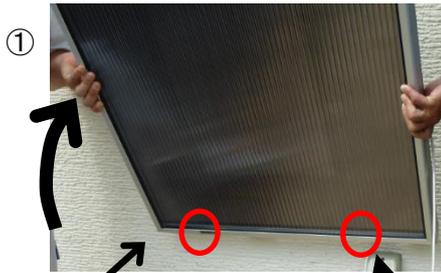
・本体取り付け

<注意> ファンの異音に繋がりますので、取り付ける際は本体裏側のファンに無理な力が加わらないように気をつけて下さい。

図 4①参照し、下部取付金具を本体の溝に引っ掛け

②本体を壁に立て掛けて取付金具の六角ボルトで、本体を固定して下さい。

図4 ①

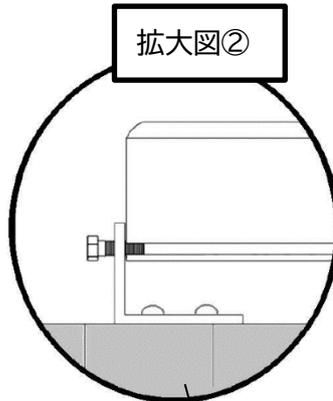


引っ掛ける



引っ掛ける

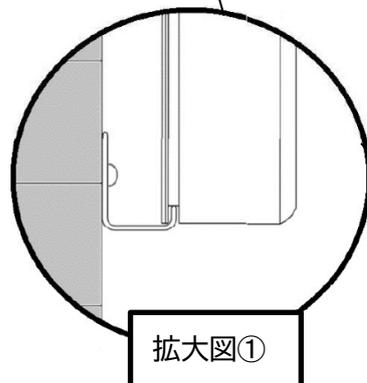
拡大図②



本体の溝に、
ボルトが入ります



図4 ②



拡大図①

取付金具は上部にも
設置可能です



取付完了です。

本体・取付金具にぐらつきが無いが、必ず確認をして下さい。

・フレーム金具の取り付け

室内側に室内端末フレーム金具をフレーム用の短いビスで4箇所止めて下さい。(図5参照)

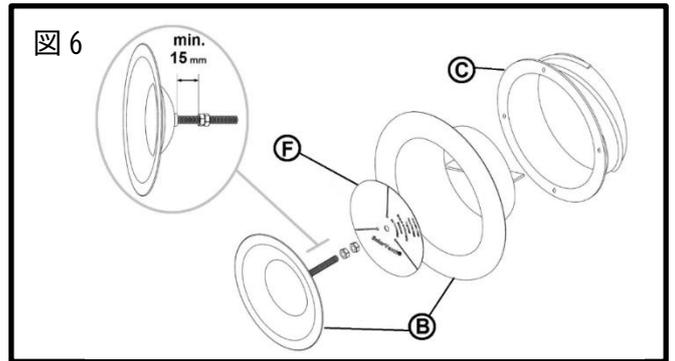
※フレーム金具のビス穴の位置と下地の位置を合わせて下さい。



室内側貫通部



図5 室内端末フレーム金具

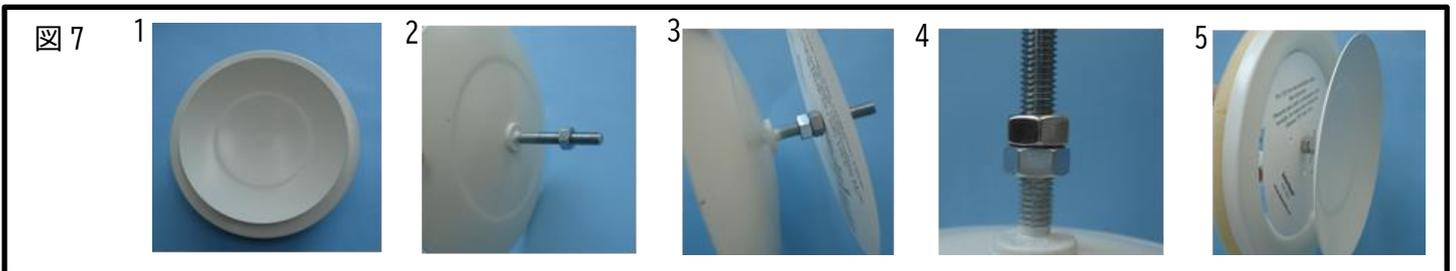


B. 室内端末グリル (风量調整プレート)

F. 逆流防止弁

・逆流防止弁の取り付け

逆流防止弁を図6のように室内端末グリルに取り付けて下さい。(図7参照)



1. 室内端末グリルから风量調整プレートを左に回し取り外します。
2. 図7の3の风量調整プレートのボルトに付いているナットの位置を調節します。
元に戻した時、プレートとグリルの間が希望する距離になるよう、ナットの位置を調節し押さえながら、付属ナットをしめて下さい。
4. 逆流防止弁の中心の穴に3.を通して取り付けます
5. プレートを右に回し室内端末グリルに取付けます。プレートは止まるまで回して下さい。
室内端末フレーム金具に取付けて下さい(下図8参照)

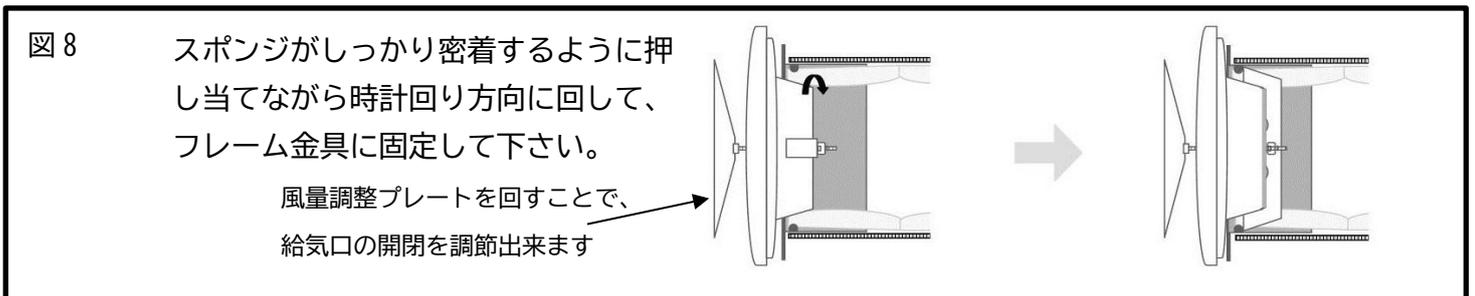


図8 スポンジがしっかり密着するように押し当てながら時計回り方向に回して、フレーム金具に固定して下さい。

风量調整プレートを回すことで、
給気口の開閉を調節出来ます

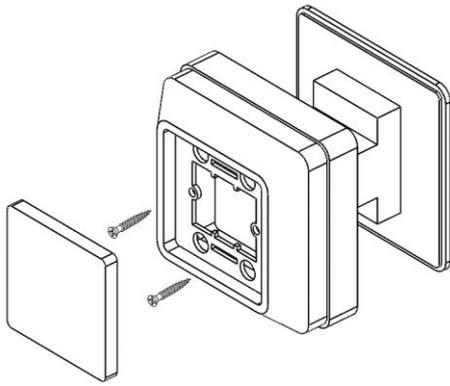


図9

事完了までは、スイッチをオフにして室内端末グリルからパネル内にほこりが入らない様に養生テープ等で塞いで下さい。

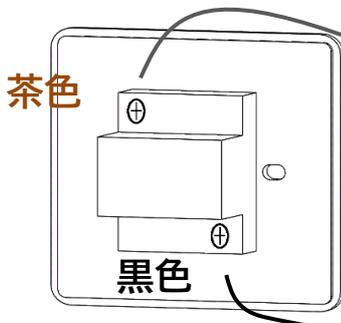
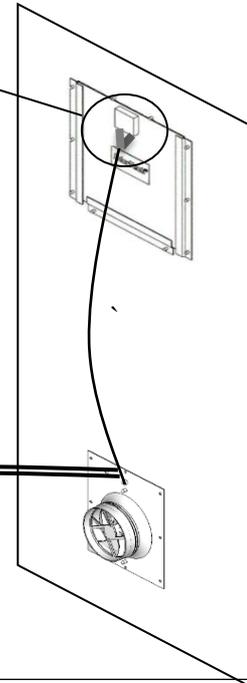
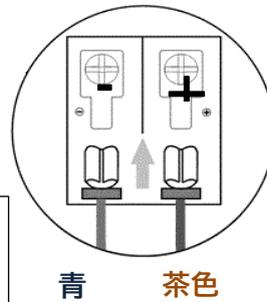
<注意> ほこりを吸い込むとパネル内部が汚れてしまう為
清掃するには分解が必要となります。

・スイッチの施工



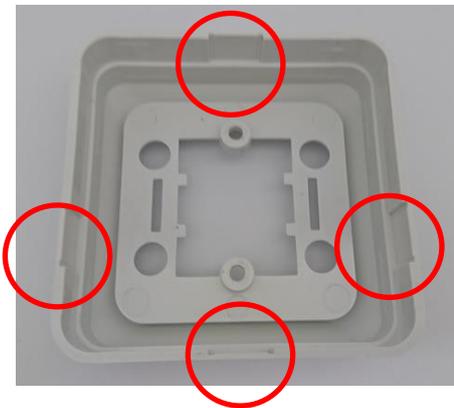
スイッチのカバーを外して下さい。

ケーブルをスイッチに接続します。接続するケーブルは茶色と黒です。



~~青~~

青のケーブルは使用しませんので絶縁処理をしてスイッチ内に格納して下さい

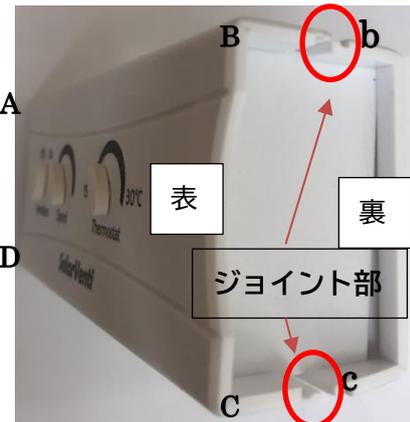
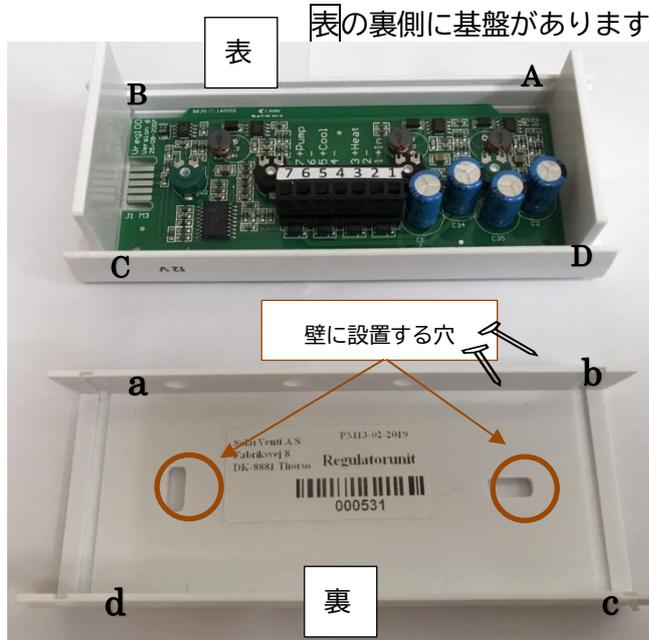
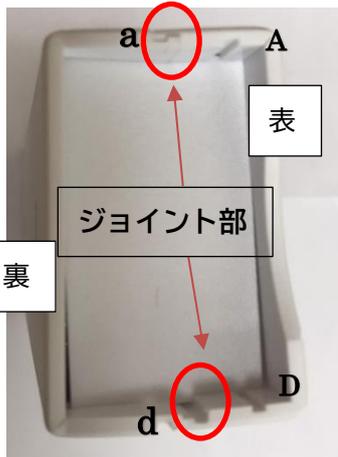


ケーブルをスイッチの外に出す為、カバーのノック（プラスチックの薄くなっている部分）を切り欠いて下さい。ノックは4カ所あるので使用したいところを切り欠いてください。

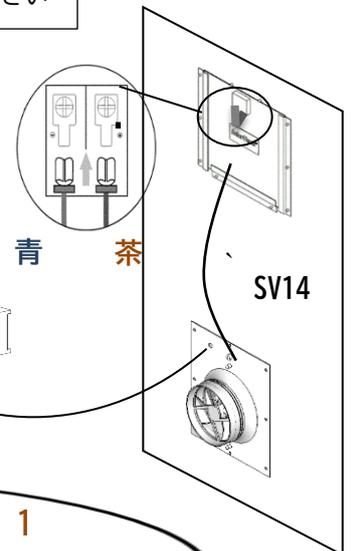


スイッチを壁などにビスで取り付けカバーをもとに戻して下さい。

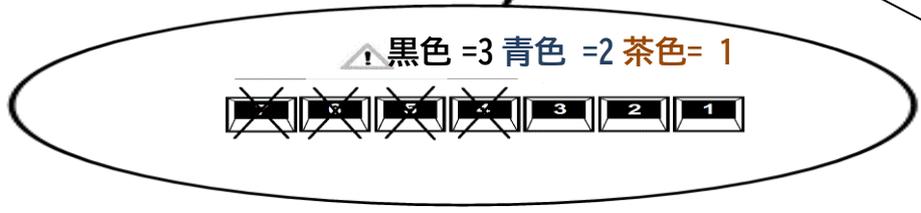
・コントローラーの施工



本体の空いた穴を使用してケーブルを差し入れてください



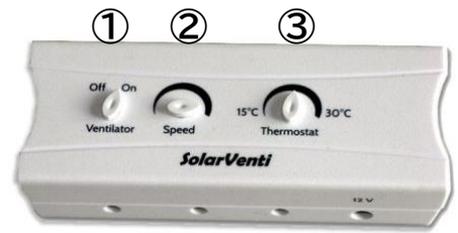
上図を参考にコントローラー内の7ピンの黒いコネクタを基板から引き抜きます。



ケーブルをコネクタに **茶色= 1** **青色 = 2** **黒色= 3** 接続して下さい。
 コネクタの上部からケーブルを差し込み横のネジを締めて固定します。しっかり差し込みコネクタをもとの位置に戻します。
 コントローラーはあらかじめ壁などに設置した裏蓋に（向きに注意して）はめこんで取り付けてください。

・コントローラーの説明

- ①ファンのオン・オフを行います。
- ②ファンの風量（回転速度）の調節を行います。
（音が気になる方は、少し左側に戻してご使用下さい）
- ③コントローラーに内蔵されたサーモスタットでファンを自動停止させる温度を設定します。
（万が一ファンが回らない場合はこの設定を最大限にして下さい）



・動作確認

ソーラーウォーマーに日射が当たっていることを確認し次の動作確認を実施してください。もし日射が得られない場合は500W以上の投光器等を集熱パネル内の発電パネルに近距離で照らしてください。日射がパネルに当たっている時に空気取り込み口に手をかざるかティッシュペーパーを当てて、ファンが運転し給気があるか確認してください。

スイッチ

1. スイッチをONにします。
2. グリルから温風が出てくることを確認してください。
（投光器を使用している場合、風は出ますが温風は出ません）
3. スイッチをOFFにし、ファンが停止することを確認してください。

コントローラー

1. サーモスタットのつまみを最大（30℃）にします。
2. ①の回転速度調整つまみを回しファンの回転が制御できるか確認してください。
3. グリルから温風が出てくることを確認してください。
（投光器を使用している場合、風は出ますが温風は出ません）

【お手入れ方法】

ソーラーウォーマー表面や室内端末の汚れが目立って来ましたら、固く絞った雑巾等で拭き取って下さい。

<注> 破損・劣化の恐れがありますので、汚れの拭き取りにはシンナーやベンジン等の溶剤系の液体は絶対に使用しないで下さい。



〒178-0064 東京都練馬区南大泉 5-18-19

電話：03-3925-0065 FAX：03-3925-0061

ホームページ：http://www.ms-matsunaga.jp